

● 新指定答申文化財の概要

【種別】有形文化財 考古資料

【名称】天白遺跡出土品

(てんぱくいせきしゅつどひん)

【員数】2,213点

【所在地】三重県多気郡明和町竹川 503 三重県埋蔵文化財センター

【所有者】三重県

【年代】縄文時代後・晩期

【概要】松阪市嬉野釜生田町<sup>かもだ</sup>にある天白遺跡から出土した、縄文時代後期から晩期の土器・土偶・石器等です。土器の形や文様は、西日本の特徴を持っているものが中心ですが、東北地方や関東地方、中部高地、北陸地方の特徴を持つものも確認できます。これらの土器は、天白遺跡が東西文化の結節点であることを示しています。さらに、土偶や石棒等の当時の精神文化に関わる多彩な土製品・石製品が多く含まれています。

一般的に、西日本の遺跡から出土する縄文土器は少量の場合が多いのですが、天白遺跡からは多種類の土器・土偶・石器等が膨大に出土しました。完全な形に復元できるものも多くみられ、質・量ともに西日本の中でも代表となる資料です。

天白遺跡出土品は、東西文化の結節点である当地の生活・生業、精神文化、交流・交易を示す貴重な資料であり、三重県だけでなく、近畿・東海地方の縄文時代後期から晩期を代表する資料といえます。

